

初年次教育 学内科目設置一覧

	履修学生(学部)	科目名	科目区分	選択・必修	単位数	ねらい・目標	手法
全学共有科目	全学部(経済学部を除く)	基礎ゼミ	全学共通	選択	2	大学で学習するために必要な基礎技能を養う(読む、書く、話す)。	発表、レポート提出等
全学共有科目	全学部	教養テーマゼミ	全学共通	選択	4	大学で学習するために必要な基礎技能を養う(読む、書く、話す)。 素材は各教員の定める「テーマ」による。	発表、レポート提出等
文	日本文学科	日本語学入門Ⅰ・Ⅱ	学部固有	必修	各2	現代日本語の音声・音韻、文字・表記のしくみ・特徴について理解することを目標とする。日本語という身近な素材を研究対象として、そのあり方を知り、問題点を見出し、自ら解明しようとする姿勢(これは、すなわち学問の基本姿勢である)をもつに至ることが、第一の目標である。	講義形式
文	日本文学科	日本文学入門Ⅰ・Ⅱ	学部固有	必修	各2	日本文学研究に必要な基礎知識を身につけることを目指す。文学研究はまず作品を読むことから始まるが、その際作品の原典を確認する必要があることが多く、日本文学科の学生として、くずし字を学ぶことは必須のことである。この科目ではくずし字をなるべくすらすらと読めるようになることを第一の目標とし、「日本文学入門Ⅱ」において、構造的に文学史を理解し、自分の力で考察を深めるのに必要な基本的知識をあわせて習得することを目標とする。	講義形式
文	言語表現学科	言語表現学入門Ⅰ・Ⅱ	学部固有	必修	各2	私たちが日常の言語生活をおくる上で、文字の読み書きは欠かせない。文字を読むときには間違いなく的確に読み取り、文字を書き表すときには正しく効果的な文字使いをすることができるよう、必要最低限の知識や技法を身につけ、学生として恥ずかしくない文章が書けるようになることを目標とする。	文章作成やレポートの提出
文	言語表現学科	文章技術論Ⅰ・Ⅱ	学部固有	必修	各2	相手の反応を見て、調整しながら情報を伝達していく口頭表現とは異なり、長大なひとまとまりの情報を伝達する文章表現には、書き手の文章の構成力・表現力が強く求められる。特に、情報が溢れている現代において、読み手にとってわかりやすい文章を作成する能力は必須である。本講義では、日本語の文章作成の基礎を概説し、課題の文章の作成、添削を通して、書き手の発想が適切に読み手に伝わる文章表現の基礎を習得することを目標とする。	講義形式
文	歴史文化学科	歴史文化学入門	学部固有	必修	2	歴史文化学科で学ぶのは、「おぼえる日本史」ではない。自身が発見する日本の歴史文化である。そうした学びの基礎として、歴史を知る方法を学ぶ。昔の人が書いた文献(史料)から過去を復元するのが、日本史学を含む歴史学である。本講義では、史料のみならず、何によって昔のことが分るのか、昔の人が書いた文献なら事実が書いてあると判断してよいのか、確実な史実はいかにしてつかむことができるのか、などの疑問に日本史学はどう答えているかを学ぶ。方法は事例に即して学ぶしかない。事例として、おもに戦国・織豊期(16世紀)の尾張・三河の歴史を扱う。歴史を科学的に理解する方法を学び、俗説に惑わされない判断基準を身に付けることと、みずからの生きる場所に豊かな歴史があるのを知ることを目標とする。	講義形式
文	歴史文化学科	古文書読解入門	学部固有	必修	2	歴史の研究では、その当時に書かれた文献史料を用いて分析・考察を行なう。歴史時代では、ほとんどの歴史史料が和紙に墨で文字を書いた「古文書」であり、現在とは異なるくずされた文字や用語が出てくることから毛筆によるくずし字で書かれた文書を読解する能力が必要となる。くずし字読解能力を養うとともに、正確に意味・内容が理解できる力を身に付けることを目標とし、併せて歴史学の基礎的な知識も得られるようにする。	講義形式
国際	国際	入門ゼミ(アカデミック・スキルズ)	学部固有	必修	2	大学での学びへの導入という目標のもと、「読む」「書く」「話す」「聴く」の基礎的な訓練を行う。具体的には、大学の学習環境について知り、慣れること、問題意識をもって自らの学修課題を見出すこと、そのために必要な正しい情報を集めること、情報を正確に読み取ること、自分の考えを論理的に組み立て、口頭および文章でわかりやすく伝えること、他人の考えを正しく聞き取ること、他人と意見を交わし、協働作業をすることを学ぶ。口頭発表およびレポートの作成に際しては、その作法を習得することに加えて、情報倫理の基礎も学ぶ。	演習形式

初年次教育 学内科目設置一覧

履修学生(学部)	科目名	科目区分	選択・必修	単位数	ねらい・目標	手法	
国際	国際 (GLS)	Critical Thought and Expression	学部固有	必修	2	(英文) This course provides the analytical and logical foundations for researching and writing about global issues. Its primary focus is on how systems thinking enables views to emerge that contrast with conventional approaches to complex problems. Students will develop the skills to analyze major issues, and to think more deeply. The course will develop the students' ability to question and challenge various ideas, and to understand that all texts are written from the perspective of the author. Hence they will realize that when trying to approach the 'truth', we must carefully consider various viewpoints and arrive at our own conclusions. This entails not only identifying relevant issues, but also researching and writing about them in a comprehensible manner.  (和訳) 本講義はグローバルイシューに関する研究や著述に役立つ分析的かつ論理的な思考の基礎固めを目的としている。主としてシステム思考を取り上げ、複雑な問題に対する従来型アプローチとの違いをいかに明らかにできるかについて考察する。重要な問題を分析し深く掘り下げるスキル、あるいは種々の考えを疑い検証し、書かれた文章を筆者の立場から正しく理解する能力の獲得を目指す。 真実の解明を試みる上で必要となる様々な視点を慎重に考慮する力、自分なりの結論を導く力を養う。また必然的に関連する問題を特定化できる力だけでなく、包括的な手段を用いた研究力や著述力も養う。	講義形式
国際	言語文化	入門ゼミ(アカデミック・スキルズ)	学部固有	必修	2	大学での学びへの導入という目標のもと、「読む」「書く」「話す」「聴く」の基礎的な訓練を行う。具体的には、大学の学習環境について知り、慣れること、問題意識をもって自らの学修課題を見出すこと、そのために必要な正しい情報を集めること、情報を正確に読み取ること、自分の考えを論理的に組み立て、口頭および文章でわかりやすく伝えること、他人の考えを正しく聞き取ること、他人と意見を交わし、協働作業をすることを学ぶ。口頭発表およびレポートの作成に際しては、その作法を習得することに加えて、情報倫理の基礎も学ぶ。	演習形式
国際英語	国際英語学科	英文電子文書作成 I・II	学部固有	必修	各1	大学で学習するために必要となる基礎的なPCスキルを修得する	課題・レポート・タイピングテスト・プロジェクトワークショップなど
国際英語	国際英語学科	国際英語キャリア入門演習 I・II	学部固有	必修	各2	図書館の使用方法やグループ・ワークショップなど大学で学習するために必要となる基礎的なスキルを修得する	課題・レポートなど
国際英語	国際英語学科	英語圏文化入門演習 I・II	学部固有	必修	各2	図書館の使用方法やグループ・ワークショップなど大学で学習するために必要となる基礎的なスキルを修得する	課題・レポートなど
国際教養	国際教養学科	国際教養学入門A(言語)・B(歴史)・C(思想)・D(国際社会)	学部固有	必修	2	国際教養学部で学ぶ上で必要な、言語・歴史・思想・国際社会に関する基礎知識を修得することを目的とする。	講義形式、レポートの提出等
国際教養	国際教養学科	ドイツ語／フランス語／ロシア語／スペイン語 ／中国語 情報処理	学部固有	必修	1	コンピュータにおける各原語の入力方法を会得することを目的とする。 またそれを通して情報検索・文書作成・各種ソフトを用いた情報処理に習熟することも目指す。	コンピュータ演習室でのパソコンを使用した実習
心理	心理学科	現代心理学の諸領域1・2	学部固有	必修	各2	新入生に、出来るだけ早い段階で、専門的研究に触れてもらいたいとの意図から設けられた入門科目である。実験心理学、応用心理学、臨床心理学、発達心理学の各領域について、各々の教員が自らの研究を踏まえ、現在、それぞれの領域でどのような問題が提起され、どのように研究されているか出来るだけ平易な形で紹介する。	講義形式。レポートの提出
心理	心理学科	アカデミック・スキルズ	学部固有	必修	2	大学では、高校までとはまったく異なる学習スキルが求められる。自ら目標や課題を見つけ、それらに関する正確な情報を集め、整理し、その内容を論理的・批判的に考え、その調査や考察の結果を、簡潔で説得的なレポートやプレゼンテーション(口頭発表)の形にまとめることが必要となる。この授業では、そうしたスキルの基本的な訓練を行い、大学で主体的に学習を進めるために必要な基礎力を養うことを目指す。	学生のディベートでの発表を中心とし、情報の収集・整理・批判的読解、プレゼンテーションの作成等を行う。
心理	心理学科	心理学講読演習A	学部固有	必修	2	心理学の研究では海外の文献を引用することが多い。英語の心理学文献にふれて、当該分野の専門用語や基礎的な知見を習得する。	少人数形式で順番に個人発表を行い、全員で討議する。※教員ごと講義形式が違う。

初年次教育 学内科目設置一覧

	履修学生(学部)	科目名	科目区分	選択・必修	単位数	ねらい・目標	手法
心理	心理学科	心理学統計法1	学部固有	必修	2	心理学の実証研究に不可欠な統計的知識、データ整理および統計分析の基礎をつかむことを目的とする。心理学になぜ統計が必要なのかを理解し、記述統計(集めたデータの特徴を記述する統計)の概要と推測統計(集めたデータに基づいて集めていない部分を含めた全体を推測する統計)の基礎の修得を目指す。	講義形式。適宜演習課題を実施する。
心理	心理学科	心理学統計法2	学部固有	必修	2	心理学統計法1の内容を踏まえた上で、様々な分析方法(分散分析、単回帰分析など)を習得することを目的とする。加えて、分析結果の解釈や統計量の報告について理解を深め、実際にレポートや論文へ活かせるようになることを目指す。	講義形式。適宜演習課題を実施する。
心理	心理学科	心理学概論1	学部固有	必修	2	人間のこころや行動の基礎にある原理を、心理学の各領域で展開されている研究例をあげながら説明し、「行動」という面から人間のこころの本質に迫ろうとする現代心理学の方法論についても概説する。心理学概論1では、感覚・知覚、情報処理、動機づけ・感情の分野を中心に講義する。「心理学」の基本的理解を目指す。	教科書を使用しながら、講義形式で行う。
心理	心理学科	心理学概論2	学部固有	必修	2	人間のこころや行動の基礎にある原理を、心理学の各領域で展開されている研究例をあげながら説明する。心理学概論2では、パーソナリティ、成長・発達、社会生活における人間行動を中心に講義する。「心理学」の基本的理解を目指す。	教科書を使用しながら、講義形式で行う。
現代社会	現代社会学科	社会学入門	学部固有	必修	2	社会科学的な考え方、ないしは社会学的な考え方、ものの見方は、この先本学部で学んでいくうえで常に参照されるものであり、また卒業するまでに身につけてもらいたい発想法でもある。「社会学入門」はその導入として、少しでも社会学的な発想法になじんでもらうことをねらいとしている。	講義形式、課題・レポートの提出
現代社会	現代社会学科	現代社会学	学部固有	必修	2	現代社会の諸問題を、社会学の知見に基づき理解できる。グローバル化をはじめとする変化のもとでの私たちの生活、人と社会の関係、仕事のあり方、地域社会や政府の役割などを、歴史的・理論的視点をもって説明できるようになる。	講義を中心としながらも、学生による報告・討論などを交えて実施。
現代社会	現代社会学科	キャリアデザイン	学部固有	必修	2	キャリア(『一人一人の社会的・職業的に自立に向け、必要な知識となる能力や態度』中教審答申H24.8)を身に付けるために、「協働」による互恵の関係構築の実践を通して、学生一人一人が受け身ではなく、主体的・自立的に行動できる力や、大学生活から生涯を自らデザインし、成果を出せる力を養成する。前半(第1講～第8講)は、他者や社会(世界・日本・地域)を通して自己の現状を主観的、客観的に認識できるようになること。後半(第9講～第15講)は、前半の現状分析を反映させながら、社会と自己の将来を構想できるようになること。課題への取り組みを通して、自己のキャリア・デザインを考えると同時に、自己の能力を高められるようになること。	演習形式、課題・レポートの提出
現代社会	現代社会学科	コミュニケーション・スキル	学部固有	必修	2	・PC能力を養成することを目的に開講する。 ・Wordでは、文書作成能力及び編集機能を学び、報告書などの作成に必要な知識を養う。 ・Excelでは、種々のデータから、関数等を多用した表を作成し表を基にしたグラフを作成することにより表現力豊かな書類作成に必要な知識を養う。 ・Power Pointでは、3年・4年生で学ぶ専門科目のプロジェクト研究を行っていく際に必要なツールとして最も代表的なMicrosoftの『PowerPoint』を段階的に学習する。	各自でパソコンを操作し、基本的な操作を学習した後に演習を行い、学習内容を再確認していく。
法	法律学科	法学の基礎	学部固有	必修	2	法学をはじめて学習する学生に対して、基本的なイメージ・用語・ものの見方と考え方といった内容を、丁寧に解説する。	基本的に口頭で授業を進め、必要に応じて資料等を配布。
法	法律学科	キャリア形成の基礎	学部固有	必修	2	受講生が、有意義な学生生活を送り納得のゆく進路選択を行うのために必要不可欠な、具体的な体験談・貴重な情報・有意義なアドバイスを聴いて、実際に行動するための「きっかけ」や「コツ」を提供する。	さまざまな講演者の話を聞いたうえで、自分なりにしっかりと考え、ショートコメント・発言・レポートなどの課題に取り組む。
法	法律学科	入門演習	学部固有	選択必修	4	事前の準備や受講者全員による活発な議論のなかで、各ゼミの専門とする法(憲法、行政法、民法、商法、刑法など)の基礎知識を修得し、具体的な事案に対応できる論理的思考力を養うことを目的としている。 法学に関する基礎的な知識はもちろん、正しい講義の聴き方や本の読み方、論理的なものの考え方、プレゼンテーションやコメントの仕方、議論の仕方、答案・レポート・小論文の書き方といったことを身につけることも、大きな目的。	ゼミにより内容は異なるが、グループ毎の課題検討やディスカッション、プレゼンテーション、小論文作成など。
総合政策	総合政策学科	総合政策概論	学部固有	必修	2	総合政策学部4年間の最も基礎となる科目で、総合政策学で学ぶ対象、学修方法、科目選択等の基礎知識を修得する。	講義および課題レポート

初年次教育 学内科目設置一覧

	履修学生(学部)	科目名	科目区分	選択・必修	単位数	ねらい・目標	手法
総合政策	総合政策学科	政治学概論	学部固有	必修	2	公共政策学系の基幹科目・展開科目を学ぶのに必要な政治学のフレームワークをの基礎を学ぶ。	講義および理解度確認チェック
総合政策	総合政策学科	法学概論	学部固有	必修	2	法と人との関わりあい、人間社会の中での法の役割、法が存在する理由などを学び、人間社会そのものを考える基盤を修得する。	講義
総合政策	総合政策学科	経済学概論	学部固有	必修	2	経済の仕組みを理解し、需要と供給による経済分析の基礎を修得し、それらを応用した個別課題の経済分析を修得する。	講義
総合政策	総合政策学科	経営学概論	学部固有	必修	2	個別企業の経営実践を通して経済現象を見る眼を養う。	講義
総合政策	総合政策学科	キャリア・デザイン	学部固有	必修	2	社会人として適切に活動するために『キャリア』形成を学ぶ。就労の実態を知り、必要な能力や態度を学ぶ。自分の個性を理解し、コミュニケーション能力を養い、学生生活の目標を確立する。	グループワークおよびレポートの提出
総合政策	総合政策学科	アカデミック・スキルズA	学部固有	必修	2	大学生として身に付けたい「読む」「書く」「聴く」「話す」ことを実践的に学ぶ。	グループワークおよびレポートの提出
総合政策	総合政策学科	アカデミック・スキルズB	学部固有	必修	2	Word ,ExcelなどのPC活用能力を養成する。	パソコン操作の実習
総合政策	総合政策学科	キャリア・イングリッシュ I	学部固有	必修	2	キャリア・イングリッシュ II への継続を目指し、使える英語の修得とともに、社会で評価されるTOEICスコアの取得をめざすための英語の知識と解答スキルを修得する。	講義および小テスト
総合政策	総合政策学科	マクロ経済学	学部固有	選択必修	2	国民所得の決まり方、物価問題、失業、経済の成長と景気循環、国際収支の問題など、国民経済の基礎理論と状況等を学ぶ。	講義および小テスト
経済	経済学科	入門ゼミ	学部固有	必修	2	経済学部での学習の基礎として必要な知識や技術を学ぶ。	課題・レポートの提出
経済	経済学科	日本語表現	学部固有	必修	2	読むための具体的方法を提示し、それに則って文章を読むトレーニングをする。また、読むことを通して書くことを発展させる。	講義、課題および小テスト
経済	経済学科	マクロ経済学入門	学部固有	必修	2	人間ひとりひとり、一企業ごとの行動を「集計」することによって、「国の豊かさ」について考える経済学の一分野である。ひとりひとり、一企業ごとの行動の仕組みを分析の対象にするミクロ経済学とともに、経済学の基礎科目、入門科目として位置づけられる。例えば、次のような問いに答えを提示することを試みるのがマクロ経済学の使命である。なぜ豊かな国と貧しい国が存在するのか、なぜ今日の日本の所得は昔の所得より高いのか、不景気と好景気の違いはなぜか、景気を良くするにはどうしたらよいか、インフレーション(物価の上昇)やデフレーション(物価の下落)とはなにか。これらの問いに答える能力を獲得するために、マクロ経済学の考え方を、入門レベルの分析ツールとともに、経済学に関する一切の知識を前提とせず、出来る限り簡単に解説する。	講義、課題および小テスト
経済	経済学科	ミクロ経済学入門	学部固有	必修	2	人間ひとりひとり、一企業ごとの経済行動の仕組みや市場における政府の役割などを分析の対象とする経済学の一分野である。ひとりひとり、一企業ごとの行動を集計することによって、国の豊かさについて考えるマクロ経済学とともに、経済学の基礎科目として位置づけられる。例えば、次のような問いに答えを提示することを試みるのがミクロ経済学の使命である：(1) 民営化や規制緩和によって市場の力を重視するのはなぜか、(2) 独占や公害に対して政府はどう介入すべきか、(3) 労働意欲を削がないように所得再分配をするにはどのようにすべきか、などである。本講義は、「入門」科目として、そうした重要な問題を分析するミクロ経済学や関連する科目で求められる必須知識を提供する。	講義、課題および小テスト
経済	経済学科	キャリア・マネジメント入門	学部固有	必修	1	学部や学科での学びは勿論のこと、これから歩む人生を考え、その人生を歩むために大学生活をどう使うのか、どう過ごすのかを考える。さまざまなワークや先輩、卒業生たちが語るインタビュー動画を通じて、大学生活、これからの人生における意味を考えること、幅広い視野で将来の選択肢を探りながら有意義に大学生活を過ごすための姿勢を身につけることを目標とする。	PROGの受験、グループワークおよびレポートの提出
経営	経営学科	キャリアデザイン	学部固有	必修	2	文書の内容や話し手の言葉を正確に捉え、正しく理解できる力である「個人スキル」の向上を目標とする。次に他者との討議などの経験を通じて批判性や多様性を身に付けることで、物事や意見等の集約や問題提起ができる能力である「チームスキル」の向上を目標とする。	課題文の精読やレポート作成

初年次教育 学内科目設置一覧

	履修学生(学部)	科目名	科目区分	選択・必修	単位数	ねらい・目標	手法
経営	経営学科	アカデミックスキルズ	学部固有	必修	2	経営学の全般的な基礎知識の修得を目標とする。また、(読む-討議する-まとめる-プレゼン等)能力の修得も目標とする。	課題の検討や発表
経営	経営学科	海外ビジネス研修	学部固有	選択必修	2	現地での授業で、大学内にて日常英会話と英語によるプレゼンテーション能力、作文能力及びリサーチスキル等を身につける。	日本での事研修及び現地研修
経営	経営学科	ビジネス・イングリッシュ I・II	学部固有	選択必修	2	流暢な英会話ができることを目指し、批判的思考や発展的な議論をする技術を身につける。	英語でのディスカッションや発表
経営	経営学科	ビジネス・コンピューティング I・II	学部固有	選択必修	2	Wordを用いて、さまざまな種類の文書を自由にかつ効率的に作成することを目標とする。また、PowerPointを用いて、プレゼンテーションにかかわる素材を能率的に作成することを目標とする。	コンピュータを使用した授業およびレポートの提出
経営	経営学科	経営学入門 I・II	学部固有	選択必修	2	初めて経営学を学修する学生を対象としているため、「経営学の全体像」を理解すること、説明できることを目標とする。これにより、今後、学生が自分の望むキャリアに適した履修モデルを選択できるようになることを狙いとしている。	配布資料を基にした事例の考察、説明、およびMaNaBoを利用したクイズ、レポートの提出
経営	経営学科	データサイエンス入門 I・II	学部固有	選択必修	2	統計学や情報工学などの手法を用いて、データから有意義な情報を引き出すための知識と技術を身につける。	基礎統計学の学習と、統計分析ソフトウェアを用いた分析・推定の実践
経営	経営学科	簿記入門 I・II	学部固有	選択必修	2	大学で初めて簿記を学習する学生を対象として、取引の記録ルールである仕訳(しわけ)、元帳転記等の簿記一巡の手続の修得を目指す。最終的には貸借対照表と損益計算書の利益は一致するという損益計算の基本を理解するため、簡単な精算表(決算整理なし)の作成を目標とする。	教科書及び問題集、補助プリントをもとに、論点の説明、例題の計算と解説および小テスト
工	機械システム工学科	基礎数学	学部固有	選択	2	高校数学の基礎力を固めて、大学の工学系授業への移行を容易にする。そのために、まず一次関数や二次関数の基本概念と計算方法、次に、三角関数、正弦定理・余弦定理の基本概念と計算方法を学び、力学系専門科目への応用事例について学ぶ。続いて、指数関数、対数関数、微分、積分の基本概念と計算方法を学び、制御系専門科目へのつながりを意識できるようにする。最後に、ベクトルと行列の基本概念と計算方法、力学系および制御系専門科目への応用事例について学び、専門科目への移行をスムーズにする。三角関数、微分・積分、ベクトルの基礎的な概念を身につけ、高校数学の基礎力を固めることを目標とする。	講義形式の授業を行う。授業中に小演習を実施するとともに、宿題を課す。
工	機械システム工学科	コンピュータ・リテラシ	学部固有	必修	2	情報化社会においては、コンピュータなどの情報機器の仕組みを理解し、仕事や日常生活に利用する技術を習得することが必要である。これらの技術は、コンピュータの操作だけではなく、文章作成ソフトの利用や、情報検索、自分の考えの説明など、多岐にわたる。本講義では、コンピュータを用いて、電子メール、インターネットアプリケーションの利用方法、レポート作成に必要な文章作成ソフト・表計算ソフトの操作について理解を深める。また、ホームページの作成方法や、プレゼンテーション技術についても説明する。基本ソフト(OS;オペレーティングシステム)および応用ソフト(Eメール、WWW、ワープロなど)の設定方法や使い方を修得する。また、コンピュータを維持・管理するための能力も養成する。	講義はコンピュータ演習室で行う。また、課題を通じて実践的な能力を養成する。
工	機械システム工学科	工学基礎実験A	学部固有	必修	2	機械システムエンジニアとして必要な知識であるメカトロニクス、知的制御、人間工学などについて、実験を通じて体験的に学習する。履修者は、各実験テーマの内容に沿って実際にモノやヒトを測定したり、回路の製作・制御プログラムの作成を行う。また、実験から得られた結果を考察し、レポートとしてまとめることで機械システムに対する理解を深める。工学基礎実験Aでは、マンマシン・インターフェース評価、材料の構造・機能、組み込みアプリケーション開発、ロボットインターフェース、金属加工、エージェント・ベースド・モデル作成について学ぶ。実験における観測・確認を通して現象・理論などに対する理解を深め、体験として製作・加工・測定・制御・プログラミング技術、および報告書の修得を進める。	実験指導書に沿って実験を行う。また、レポート(事前課題、課題)作成および発表を行う。
工	機械システム工学科	工学基礎実験B	学部固有	必修	2	機械システムエンジニアとして必要な知識であるメカトロニクス、知的制御、人間工学などについて、実験を通じて体験的に学習する。履修者は、各実験テーマの内容に沿って実際にモノやヒトを測定したり、回路の製作・制御プログラムの作成を行う。また、実験から得られた結果を考察し、レポートとしてまとめることで機械システムに対する理解を深める。工学基礎実験Bでは、ヒトの筋の構造・機能、ロボットモーション設計、ビジュアルフィードバック制御、生産システム、生体電位、ロボット制御について学ぶ。実験における観測・確認を通して現象・理論などに対する理解を深め、体験として製作・加工・測定・制御・プログラミング技術、および報告書の修得を進める。	実験指導書に沿って実験を行う。また、レポート(事前課題、課題)作成および発表を行う。

初年次教育 学内科目設置一覧

	履修学生(学部)	科目名	科目区分	選択・必修	単位数	ねらい・目標	手法
工	機械システム工学科	キャリア・デザイン	学部固有	必修	2	工学を志して入学した皆さんに向けたキャリアデザインプログラム。自分らしさを知り、業界や企業といった社会を知り、理想に向けて自分の学生生活を設計することがこの授業の柱となります。特に工学系のように、自分の興味・関心が比較的明確で、その延長線上にキャリアを描こうとする場合、重要となってくるのが社会に対する「価値貢献」の視点です。自分が大学で培う能力を活かして「社会にどんな価値を提供するのか」、それを考えることが授業の大きなテーマとなります。また、入学当初における仲間作りも、この授業のテーマです。毎回提出される話題をペアワークやグループワークを通じて議論しながら、これからの大学生活を共に学び共有する仲間の存在を知り、対人興味や多様性に対する理解の基礎を身につけて欲しいと思います。 ◆働くことの実態を知り、そこで求められる能力や態度について学びます。 ◆大学生活の目標を考え、期待感を高めます。 ◆自分のパーソナリティを理解します。 ◆社会に対する価値貢献の視点を養います。 ◆コミュニケーションする力を養います。 ◆要点をまとめて書く力を養います。	◆講義、ゲームなどを組み合わせて授業を進めていきます。 ◆グループワークを授業の中に組み込み、学生同士でコミュニケーションしながら授業を進めていきます。 ◆授業のテーマに沿って自分が考えたことをアウトプット(書く、話す等)しながら進めていきます。 ◆授業の中で書いたレポートを毎週添削して返却します。
工	機械システム工学科	機械システム工学基礎A	学部固有	自由	2	この授業の目的は、これから、機械システム工学の専門科目を学習するために最低限必要な基礎学力を身に付けることである。具体的には、数学(特に解析学及びそれに必要な前提となる数学)の基礎を固める。「基礎数学」、「解析学1」、「線形代数」などの演習問題等を題材として、自分の弱点を見つけ、これから学ぶ専門科目を理解できる基礎学力を修得する。複数の教員、上級生が、各自の学力に合った指導をする。分かった学生が分からない学生を教えることにより、知識を補強し、使える知識を身に付けることを目指す。学習内容は、教員の指導により、各自が決める。本授業は、教員、先輩、友達との対話によって知識を深めるアクティブラーニング型の授業である。この授業によって、大学における学習の仕方、知識の使い方を身に付け、習慣化することを目指す。	演習問題を解き、不足している知識を学習する。教員、上級生による個別指導による。
工	機械システム工学科	機械システム工学基礎B	学部固有	自由	2	この授業の目的は、これから、機械システム工学の専門科目を学習するために最低限必要な基礎学力を身に付けることである。具体的には、数学(特に解析学)、物理学(特に静力学)の基礎を固める。「基礎数学」、「解析学2」、「機械静力学基礎」などの演習問題等を題材として、自分の弱点を見つけ、これから学ぶ専門科目を理解できる基礎学力を修得する。複数の教員、上級生が、個別指導により、各自の学力に合った指導をする。分かった学生が分からない学生を教えることにより、知識を補強し、使える知識を身に付けることを目指す。学習内容は、教員の指導により、各自が決める。本授業は、教員、先輩、友達との対話によって知識を深めるアクティブラーニング型の授業である。この授業によって、大学における学習の仕方、知識の使い方を身に付け、習慣化することを目指す。	演習問題を解き、不足している知識を学習する。教員、上級生による個別指導による。
工	電気電子工学科	物理学	学部固有	必修	2	力学と電磁気に関心をあて、物理学の基礎の理解を図る。特に、数少ない基本原理から様々な現象を予測する、という物理学の手法の理解を目的とする。かなりの部分は高校の物理の復習であるが、微分積分を用いた数式によって問題を記述し、その性質を解析することにより回路や力学システムの性質を考察することが主眼である。また高校の物理の範囲からは漏れがちな「原子と電子」や「物質の性質と電子」の分野についても、これが半導体などの電子回路の理解に不可欠であることから解説する。 電気電子工学科の専門科目を学ぶために必要な物理学の基礎の理解を図る。特に微分、積分を用いて力学の問題や電気回路の応答などを記述し、またこれを理解することができるようにする。	前半は講義形式で行い、黒板を用いた番所を中心に講義を行うが、適宜プロジェクトを用いてコンピュータにより図や動画により理解を深める。後半は演習問題を解いて理解度を確認する。
工	電気電子工学科	アカデミックスキルズ	学部固有	必修	2	本科目では、学生が大学で必要とされるアカデミックスキルを身につけることを目指している。具体的には、コミュニケーション能力とコンピュータ活用能力、そして技術者や研究者としての健全な倫理観の習得に焦点を当てている。授業では、情報収集の技法を通して適切な資料を選択し「読む」能力を養い、実験レポート作成演習を通して目的に応じた文章を「書く」能力を向上させる。さらに、プレゼンテーション演習を通してプレゼンテーションから必要な情報を「聞く」力や、スライドを活用しながら論理的に「話す」能力を磨く。また、文書作成や表計算、プレゼンテーションソフトウェアを使いこなすことで、技術者や研究者として相応しい行動を選択する力を養う。	講義形式と演習形式を並行して授業を行う。プレゼンテーションを1回、グループワークを1回実施する。
工	電気電子工学科	電気電子工学概論	学部固有	必修	2	本学の電気電子工学科で学ぶ内容について、「制御・メカトロニクス」、「エレクトロニクス」、「通信工学」の主要3分野について網羅的に概説する。「制御・メカトロニクス」分野では、制御機器等への応用技術について説明する。「エレクトロニクス」分野では、アナログ・デジタル回路設計技術、パワーエレクトロニクスについて説明する。「通信工学」分野では、現代のコミュニケーションシステムについて説明する。また、これらの基礎となる電気回路、電磁気学等の基礎科目やその応用としての情報技術(IT)についても説明する。 電気電子工学で学ぶ内容を理解し、学問をする姿勢を身に付ける第一歩とする。また、制御・メカトロニクス、エレクトロニクス、通信工学、情報技術と現在の生活との関連を理解し、将来、自分がどの分野にどのように関わっていくかを展望できるようになる。	オムニバス方式による講義

初年次教育 学内科目設置一覧

	履修学生(学部)	科目名	科目区分	選択・必修	単位数	ねらい・目標	手法
工	電気電子工学科	物理学実験	学部固有	必修	2	「物理学」で習得した基礎的な物理法則や原理を、学生が主体的に実験を行なうことにより体験的に習得する。物の性質を調べるだけでなく、実験機器の取り扱いを習得する予備実験からレポートにまとめるまでの一連の活動を行なうことで、今後履修する実験科目受講の基礎を作る。主な実験内容は、「力学実験とデータ解析」、「シミュレータと実電気回路の動作比較実験」、「単振子とバネの振動実験」、「光の反射と屈折実験」、「弦の振動実験」である。実験は1課題あたり2週にわたって行なう。 今後履修する実験科目の準備として、実験機器の取扱い方法だけでなく、事前に予習(実験シミュレーション)したうえで実験に取り組む姿勢も習得する。また、実験結果をまとめ、理論と比較・考察し、レポートにまとめ、期限をまもって提出する習慣を身につける。	全体で行う実験ガイダンスの後、各課題2週にわたって実験を行う。レポート指導も行う。
工	電気電子工学科	情報基礎理論	学部固有	必修	2	コンピュータのアーキテクチャ、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークという、コンピュータを構成する4つの基本的な要素について理解を図る。アーキテクチャ部においては、数を2進で表現することから始め、論理回路や順序回路まで言及する。ハードウェアとしては、中央処理装置、外部装置としての記憶装置と入出力装置について述べる。ソフトウェアではオペレーティングシステムの役割をプロセス管理、メモリ管理、ファイル管理に絞って説明する。最後にコンピュータネットワークの構成の理解を図る。 情報科学の基礎事項とコンピュータの基礎を習得する。コンピュータを構成するアーキテクチャ、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークのそれぞれについて、その理論や構造の概略をつかむ。	講義と演習を平行して行う
工	電気電子工学科	キャリア・デザイン	学部固有	必修	2	この授業は、工学を志して入学した皆さんに向けたキャリアデザインプログラムです。自分らしさを知り、業界や企業といった社会を知り、理想に向けて自分の学生生活を設計することがこの授業の柱となります。特に工学系のように、自分の興味・関心が比較的明確で、その延長線上にキャリアを描こうとする場合、重要となってくるのが社会に対する「価値貢献」の視点です。自分が大学で培う能力を活かして「社会にどんな価値を提供するのか」、それを考えることが授業の大きなテーマとなります。また、入学当初における仲間作りも、この授業のテーマです。毎回提出される話題をペアワークやグループワークを通じて議論しながら、これからの大学生活を共に学び共有する仲間の存在を知り、対人興味や多様性に対する理解の基礎を身につけて欲しいと思います。 ◆働くことの実態を知り、そこで求められる能力や態度について学びます。 ◆大学生活の目標を考え、期待感を高めます。 ◆自分のパーソナリティを理解します。 ◆社会に対する価値貢献の視点を養います。 ◆コミュニケーションする力を養います。 ◆要点をまとめて書く力を養います。	◆講義、ゲームなどを組み合わせて授業を進めていきます。 ◆グループワークを授業の中に組み込み、学生同士でコミュニケーションしながら授業を進めていきます。 ◆授業のテーマに沿って自分が考えたことをアウトプット(書く、話す等)しながら進めていきます。 ◆授業の中で書いたレポートを毎週添削して返却します。
工	電気電子工学科	電気電子工学基礎A	学部固有	自由	2	この授業の目的は、これから、電気電子工学の専門科目を学習するために最低限必要な基礎学力を身に付けることである。具体的には、数学(特に微分積分学)、物理学の基礎を固める。「微分積分学1」、「物理学」の演習問題等を題材として、自分の弱点を見つけ、これから学ぶ専門科目を理解できる基礎学力を修得する。複数の教員、上級生が、各自の学力に合った指導をする。分かった学生が分からない学生を教えることにより、知識を補強し、使える知識を身に付けることを目指す。学習内容は、教員の指導により、各自が決める。本授業は、教員、先輩、友達との対話によって知識を深めるアクティブラーニング型の授業である。この授業によって、大学における学習の仕方、知識の使い方を身に付け、習慣化することを目指す。	演習問題を解き、不足している知識を学習する。教員、上級生による個別指導による。
工	電気電子工学科	電気電子工学基礎B	学部固有	自由	2	この授業の目的は、これから、電気電子工学の専門科目を学習するために最低限必要な基礎学力を身に付けることである。具体的には、数学(特に微分積分学)、物理学の基礎を固める。「微分積分学2」、「物理学」の演習問題等を題材として、自分の弱点を見つけ、これから学ぶ専門科目を理解できる基礎学力を修得する。複数の教員、上級生が、個別指導により、各自の学力に合った指導をする。分かった学生が分からない学生を教えることにより、知識を補強し、使える知識を身に付けることを目指す。学習内容は、教員の指導により、各自が決める。本授業は、教員、先輩、友達との対話によって知識を深めるアクティブラーニング型の授業である。この授業によって、大学における学習の仕方、知識の使い方を身に付け、習慣化することを目指す。	演習問題を解き、不足している知識を学習する。教員、上級生による個別指導による。

初年次教育 学内科目設置一覧

	履修学生(学部)	科目名	科目区分	選択・必修	単位数	ねらい・目標	手法
工	情報工学科	キャリアデザイン	学部固有	必修	2	この授業は、工学を志して入学した皆さんに向けたキャリアデザインプログラムです。自分らしさを知り、業界や企業といった社会を知り、理想に向けて自分の学生生活を設計することがこの授業の柱となります。特に工学系のように、自分の興味・関心が比較的明確で、その延長線上にキャリアを描こうとする場合、重要となってくるのが社会に対する「価値貢献」の視点です。自分が大学で培う能力を活かして「社会にどんな価値を提供するのか」、それを考えることが授業の大きなテーマとなります。また、入学当初における仲間作りも、この授業のテーマです。毎回提出される話題をペアワークやグループワークを通じて議論しながら、これからの大学生活を共に学び共有する仲間の存在を知り、対人興味や多様性に対する理解の基礎を身につけて欲しいと思います。 ◆働くことの実態を知り、そこで求められる能力や態度について学びます。 ◆大学生活の目標を考え、期待感を高めます。 ◆自分のパーソナリティを理解します。 ◆社会に対する価値貢献の視点を養います。 ◆コミュニケーションする力を養います。 ◆要点をまとめて書く力を養います。	◆講義、ゲームなどを組み合わせて授業を進めていきます。 ◆グループワークを授業の中に組み込み、学生同士でコミュニケーションしながら授業を進めていきます。 ◆授業のテーマに沿って自分が考えたことをアウトプット(書く、話す等)しながら進めていきます。 ◆授業の中で書いたレポートを毎週添削して返却します。
工	情報工学科	C言語1	学部固有	必修	2	初学者にもわかるように、初歩的なテキスト編集機能やコンピュータ操作の学習から始めて、実際にプログラムを作成しながらC言語におけるプログラミングの基本概念の理解を目標とする。 Cプログラムにおける変数や代入の概念を理解し、if文、switch文といった条件分岐、whileやfor文、continueおよびbreak文を用いたループ制御、関数定義および一次元および二次元配列について学習する。 これらの理解を通してコンピュータの基本動作を理解する。C言語1演習とあわせて履修すること。	C言語の基本要素について、講義形式で教科書にそって学習する。
工	メディア工学科	キャリアデザイン	学部固有	必修	2	この授業は、工学を志して入学した皆さんに向けたキャリアデザインプログラムです。自分らしさを知り、業界や企業といった社会を知り、理想に向けて自分の学生生活を設計することがこの授業の柱となります。特に工学系のように、自分の興味・関心が比較的明確で、その延長線上にキャリアを描こうとする場合、重要となってくるのが社会に対する「価値貢献」の視点です。自分が大学で培う能力を活かして「社会にどんな価値を提供するのか」、それを考えることが授業の大きなテーマとなります。また、入学当初における仲間作りも、この授業のテーマです。毎回提出される話題をペアワークやグループワークを通じて議論しながら、これからの大学生活を共に学び共有する仲間の存在を知り、対人興味や多様性に対する理解の基礎を身につけて欲しいと思います。 ◆働くことの実態を知り、そこで求められる能力や態度について学びます。 ◆大学生活の目標を考え、期待感を高めます。 ◆自分のパーソナリティを理解します。 ◆社会に対する価値貢献の視点を養います。 ◆コミュニケーションする力を養います。 ◆要点をまとめて書く力を養います。	◆講義、ゲームなどを組み合わせて授業を進めていきます。 ◆グループワークを授業の中に組み込み、学生同士でコミュニケーションしながら授業を進めていきます。 ◆授業のテーマに沿って自分が考えたことをアウトプット(書く、話す等)しながら進めていきます。 ◆授業の中で書いたレポートを毎週添削して返却します。
工	メディア工学科	メディア技術1(ICTの基本)	学部固有	必修	2	メディア技術者には、情報通信技術(ICT;Information and Communication Technology)の基礎を十分理解し、それを実践・応用する能力が求められる。 情報メディアの中核をなすコンピュータの仕組みを理解する上で重要な情報の基礎理論とハードウェアについて学ぶ。 コンピュータの内部では情報はどのように表現され、どのような仕組みによって処理されているか、また、その処理の基本的な原理はどのようなものであるかなど、を講義する。	基本的には講義形式であるが、講義の合間に演習問題を解きながら進める。
工	メディア工学科	メディア工学入門	学部固有	必修	2	メディア工学と何か、また、メディア工学技術が社会でどのように活用されているのかを調査し、学科で展開される授業科目との関連を理解する。また、メディア工学を学ぶ上で必要な各種デジタルデータに関する基礎知識と、それを処理するための実践力を養うことを目的とする。	メディア工学を学ぶ上で必要なデジタルデータの知識や実践力を養うため、各自のノートパソコンを活用して授業を進める。
スポーツ科	スポーツ科学部共通	スポーツ科学入門	学部固有	必修	2	①スポーツ科学とは何かを理解し、説明できる。 ②スポーツ科学の基本となる用語・単位・原理などを理解できる。 ③スポーツ科学の知識をスポーツ実践に応用できる。 ④2年生から学ぶスポーツ科学分野の様々な専門科目の基礎知識を理解できる。	細分化されたスポーツ科学の専門分野(運動生理学やスポーツバイオメカニクス、スポーツ心理学など)を、その分野を専攻する教員によりオムニバス形式で講義を行う。各講義時に適宜資料を配布し、その内容にそって講義を行う。学習を効果的に進めるために、必要に応じてパワーポイントや動画などで関連資料を提示する。



初年次教育 学内科目設置一覧

	履修学生(学部)	科目名	科目区分	選択・必修	単位数	ねらい・目標	手法
スポーツ科	スポーツ科学部共通	情報スキルズ	学部固有	必修	2	①情報社会でのルール、マナー及びセキュリティの知識を習得し、実践できるようになる。 ②『Word』を使用した日本語文章処理、『Excel』を使用した表計算などを使いこなせる能力を養う。 ③『Power Point』をツールとして使いこなせる事(PC能力)と効果的なプレゼンテーションができるようになる。	各自でパソコンを操作し、基本的な操作を学習した後に演習を行い、学習内容を再確認していく。
スポーツ科	スポーツ科学部共通	アカデミック・スキルズ	学部固有	必修	2	①大学および学部の教育理念・学位授与方針を理解し、学修目標を定めることができるようになる。(目標を定める力) 2. 教育方針に基づいた学修計画を立て計画的に実施することができるようになる。(計画を立て実施する力) 3. 情報を批判的に吟味し、論理的に考えることができるようになる。(判断する力) 4. 必要な情報にアクセスし、入手することができるようになる。(調べる力) 5. 教科書や資料の内容を正しく理解し整理することができるようになる。(読む力) 6. 簡潔で論理的な文書を書くことができるようになる。(書く力) 7. 簡潔で説得的なプレゼンテーションを行うことができるようになる。(話す力) 8. 相手の知識や考えを正しく理解し内容を整理し、建設的な論議を行うことができるようになる。(聞く力、論議する力)	講義形式及びワーク形式を用いて授業を行う。
スポーツ科	競技スポーツ科学科	スポーツキャリアデザイン	学部固有	必修	2	①スポーツキャリアの多様性を知ることで、将来の選択の幅を広げられるようになる。 ②社会で求められる能力・態度を学び、競技に打ち込みながらそれらを開発できるようになる。 ③競技に打ち込んだり、スポーツを専門的に学ぶ意味を熟考することで、キャリアに対する主体性を身に付ける。 ④大学生活の目標を考え、計画を立案できるようになる。 ⑤多様な意見を享受し、議論の場で建設的に意見を出せるようになる。 ⑥論点や意見を適切にまとめて表現できるようになる。	一方的な講義だけでなく、毎回の授業では、必ずペアワークやグループワークによる議論や意見交換が展開される。各自の積極的参加が望まれる。
スポーツ科	スポーツ科学部共通	トレーニング基礎	学部固有	必修	2	①スポーツパフォーマンス向上のための体力トレーニングの基礎理論を理解し、説明できるようになる。 ②学校体育における専門種目の特徴と体力トレーニングとの関連について説明ができるようになる。 ③スポーツパフォーマンス向上のための基礎的な体力トレーニングを実践できるようになる。 ④ウェイトトレーニングにおけるBIG3(スクワット、ベンチプレス、デッドリフト)を正しく実践できるようになる。 ⑤スポーツ科学部全体の学びと合わせて、四六編の体得に寄与できるようになる。	講義と実技を織り交ぜて授業を進める。